

学長のコラム

震災と学生ボランティア

前震から丁度一か月経過した 5 月 14 日（土）に、「減災型地域社会のリーダー養成プログラム - 災害時における保健医療 -」の一番打者として、講義を一コマ担当させていただいた。講義のタイトルは、「地震と防災・医療」としたが、3 学科の 1 年生 236 名、2 年生 36 名の計 274 名の受講者を得た。プログラム主任の竹熊先生の話によると、この震災で受講者が昨年より増加したとのことであるが、何よりも、目の色を変えての意欲的な受講態度に驚いた。講義の最後に、振り返りアンケートとして、地震について学んだこと考えたこと、災害時における医療人としての自分について、災害ボランティア活動について、の 3 つの問いに答えていただいた。医療人として、諸先輩のように災害時にも活躍できるように、このプログラムでしっかり学びたいという回答が多かった。さらに、驚いたことは、274 人の受講者の内、4 割の人がボランティアに参加し、さらに、2 割の人が、帰省先の街頭で募金運動をしたとのこと、6 割強のひとが、何らかの形で、人々のために働いたことになる。この 6 割という割合は、私の想定をはるかに超える驚くべき高率で、本学の学生諸君の素晴らしさに喜びと誇りを感じた。いずれにしても、今回の震災の経験は、学生諸君の医療人としての学びに対して、相当強いモチベーションとなり得ているので、先生方にも、学生諸君のやる気に是非答えていただくようお願いしたい。



6 月・7 月の主な行事予定

6 月 10 日（金）	「いのちを守る」防災を考える」講演会（講師：佐藤敏郎氏）
13 日（月）	「少子高齢社会における看護系大学の教育の課題と将来像」（講師：文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 斉藤しのぶ氏）
18 日（土）	校友会主催 球技大会
24 日（金）	九州インカレ壮行会・クラブ顧問委託状交付式
7 月 3 日（日）	進学ガイダンスセミナー2016（大学コンソーシアム熊本）会場：熊本学園大学
7 日（木）	県内外の高校・予備校進路指導教員対象進学説明会
8 日（金）	『大学生基礎力レポート』報告会
16 日（土）	大学院修士学位論文中間発表会
18 日（月）	海の日 ※通常授業・勤務日
24 日（日）	第 1 回オープンキャンパス

Special Thanks!

震災後、大学の授業が再開された直後に、今年本学を卒業した聴覚障害のある原口彩央里さんのお母様から嶋田先生を通じて、嬉しい便りが届きました。

「震災のお見舞い申し上げます。（中略）大変お世話になった熊本の方々は何もできないので、彩央里の初任給と私の志を添えてお見舞いとさせていただきます。何かのお役に立てれば幸いです。一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。」

初任給で娘から思わぬプレゼントを渡された父親のような気持ちで、とても心が温かくなりました。この他にも、今回の震災に際し、様々な方々からご支援をいただきました。それらの内容については、学園広報誌“ぎんきょう”に掲載させていただく予定です。（文責：崎元学長）

校友会役員研修会

毎年、校友会総会で新役員が承認された後に研修会を開催しています。例年は、1泊2日で行っていますが、今年度は 6 月 4 日（土）に学内で 1 日研修を行い 98 名が参加しました。アイスブレイクとして全員でミニバレーを楽しんだ後、3 年生が校友会会則の内容及び 1 年間の校友会活動スケジュールについて説明を行い、それを真剣な表情で聞く 1 年生が印象的でした。午後からは、杏祭についてのグループワークを行いました。今年、第 40 回という区切りの年であること、熊本地震があったことから、例年とは一味違う杏祭にしたいと熱い議論が交わされていました。夕方まで研修会を行った後、最後にチーム対抗“熊保大クイズ大会”を開催し、熊保大にまつわるクイズではとても盛り上がりました。1 日という短い時間でしたが、全員の親睦が深まり、とても良い研修会になったようです。（文責：学務課）



新任教員によるお披露目講演会

5 月 24 日（火）に「新任教員によるお披露目講演会」を実施しました。今回は、4 月に着任された講師以上の先生方に発表していただきました。発表後には専門的な内容の質疑も活発に行われ、有意義な講演会になりました。

今回発表いただいた方々の内容は以下の通りです。



発表者	所属	テーマ
藤野 みつ子 教授	看護	今までの私とこれからの私
南部 雅美 教授	医学	私の二つのテーマ・形態解析と国際交流
高島 利 講師	看護	これまでの教育・研究活動と今後の方向性について
渡邊 淳子 講師	共通	書く力は生き抜く力

年度途中で採用予定の教員の方々については、改めてお披露目講演会を実施する予定ですので、楽しみにお待ちください！

大学教育改革プログラム成果報告会

5月24日(火)に「2015年度大学教育改革プログラム(学長裁量経費)成果報告会」を実施しました。本プログラムは、学長のリーダーシップのもと教育改革の推進を図る目的で、昨年度から開始されました。教育改革における最先端の情報交換ができるとともに、それぞれの先生方の教育改革にかける熱意が伝わるとても有意義な時間となりました。

今回発表いただいた方々の内容は以下のとおりです。(文責:企画課)



発表者	テーマ
竹熊 千晶 教授	医療系大学生が自ら学ぶ「ちから作り」- 「つなぐ力」・「伝える力」・「信じる力」の醸成 -
山野 克明 教授	臨床実習におけるルーブリック評価の導入に向けて
多久島 寛孝 教授	ポートフォリオを活用した教育改善の検討
渡辺 雄一 教授	初年次教育の Active Learning 化による高大接続改革の推進
嶋田 かをる 准教授	センター機能を担う学生支援体制の再構築

「いのちを守る」防災を考える」講演会

6月10日(金)に東日本大震災当時、女川中学校教師でもあり、大川小6年の愛娘を亡くした遺族として防災教育活動に取り組まれている佐藤敏郎氏をお招きし、災害時におけるリーダーの必要性や意思決定のあり方についてご講演いただきました。災害を他人事としてとらえていた私たちが、熊本地震に遭遇し、今後さらに防災・減災を考える機会となりました。翌11日には基幹科目「災害時における保健医療」履修生279名も受講し、多くの学びを得ることができました。

(文責:減災型地域社会のリーダー養成プログラム)



私の秘話ヒストリー

今回は看護学科 山口裕子准教授に投稿していただきました。

暑い季節になると必ず思い出す風景があります。

私は、以前は休みとなると My カヌーを車の上に乗せて出かけていました。球磨川や川辺川、宮崎の五ヶ瀬川。川を下ったり、岩の上からカヌーごと落ちてみたり、今の自分の体型からは考えられませんが当時は身軽でした(笑)

水面から見る風景は、河岸からみる風景とは全く違います。水面近くを飛ぶトンボやカワセミの美しさにハッと見とれたり、川の岩の位置によっては水が渦巻いて逆に上流に流されたり、川は上流から下流に流れると思いついていた私にとっては新鮮な驚きでした。川の瀬を下る爽快感と、瀬に突っ込んだ瞬間に驚いたアユの群れが一斉に飛び上がりつかみ取り出来そうなくらい船に乗ってきたときの水しぶきとウロコのキラキラは、今も鮮明に脳裏によみがえります。岩にカヌーがはさまれて動けなくなっていると、近くでアユ釣りをしている人がよく助けてくれました。釣り人にとっては本当に迷惑なことだったでしょうが、自然の中の大らかな一風景でした。(文責:山口裕子准教授)

日本温泉気候物理医学会平成 28 年度優秀論文賞受賞!!

リハビリテーション学科の岩下講師、飯山教授らが昨年度発表した論文が、日本温泉気候物理医学会平成 28 年度優秀論文賞を受賞しました。5月15日開催の第81回日本温泉気候物理医学



会総会・学術集會にて授賞式ならびに記念講演會が行われました。腎不全に対する温熱刺激の有効性について検討した論文であり、温熱刺激と腎疾患という新たな分野の研究であった点が高く評価されました。温熱の基礎研究を行っているラボは全国の大学でも数少なく、今後の活躍が学会を挙げて期待されています。

また、岩下講師、飯山教授ら研究グループの別の論文、慢性腎臓病マウスモデルを用いた全身温熱刺激の効果と作用機序について報告した論文が American Journal of Physiology Renal Physiology に掲載されました。日本人には身近なお風呂やサウナのような全身温熱を腎機能維持に役立てようという発想はこれまでになく、世界の中でも本学だけのオリジナルな研究とのこと。それだけにインパクトのある論文として評価され、American Physiological Society(APS)が出版している雑誌のなかで、今月の selected articles にも選ばれました。APS は歴史と権威のある学会で、そこに認められたということは、国際的に科学的根拠として認知されたということになります。(本学ホームページより抜粋)

世界禁煙デー、禁煙週間イベント「禁煙川柳大会」

熊本地震の影響で本学は5月9日に授業を再開しました。そのような大学の不安定な時期に「大会」をするべきか躊躇しましたが、学生委員会の後押しもあり、例年より短い募集期間で実行しました。案の定、学務課の坂元さんから「ほとんど届いていなくてピンチですよ!!!」との連絡がありましたが、学生に呼びかけをして締切間際には選考できるだけの投句を頂きました。学友会、セミナーの学生ほか有志が集まってもらい20句入賞式を行いました。



今回はやはり地震を取り入れたものが見受けられました。「地震」という言葉は禁句と思っていたら逆手にとったような川柳もあり、本学の底力を感じました。(文責:三村准教授)

学長賞

怖いもの 地震かみなり 火事タバコ 熊等生

学生委員長賞

家族から 煙たがられて 父、孤立 津々浦々

事務局長賞

愛煙家 握るおにぎり ヤニ風味 エウダイモニア

